イムマヌエル教報

2020. 7

1947年7月1日第三種郵便物認可　2020年7月5日（毎月5日発行）　イムマヌエル綜合伝道団

No.888

IMMANUEL

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒1:8）

引き抜き……また植えるために

総務局長　寺村 秀嗣

「そのとき主は御手を伸ばし、私の口に触れられた。主は私に言われた。「見よ、わたしは、わたしのことばをあなたの口に与えた。見なさい。わたしは今日、あなたを諸国の民と王国の上に任命する。引き抜き、引き倒し、滅ぼし、壊し、建て、また植えるために。」（エレミヤ一章9～10節）

＊

本来ならば今月は東京オリンピックが開幕し、世界中から人々が集まり、賑わう月になるはずでした。しかし、今年の上半期は、新型コロナウイルスのために各教会も1月の総会で立てた計画とは全く異なる歩みを余儀なくされました。これまで当然のように行ってきた教会堂での諸集会や特別な諸行事を完全にストップし、インターネットや郵送などの方法を用いることで補った教会も多くあります。各教会から送られてくる教勢報告の数字がまったくないのを拝見しながら、先生方や信徒の皆様の苦慮される姿を思い浮かべつつ、主の助けを祈りました。

本部のためにもお祈りくださり心から感謝いたします。現在、リモートでも業務ができるように設定し、各職員の方々には可能な限り在宅での業務に切り替えています。今月からは火曜日だけ時間を限定してではありますが、常駐する人員を交代で配置しようと考えています。しかし今後どうなるかは手探り状態です。業務が滞ることなく全国の教会に仕え続けることができるようにお祈りください。

このような経験を振り返りながら、エレミヤ書のことばに思いを寄せています。エレミヤは国が傾き、苦境に立つ時代に召されます。そのとき彼の口から出たことばは「私はまだ若くて、どう語ってよいか分かりません。」（一・6）でした。「若さ」は力を表すことばでもありますが、未熟さ、未経験、知識が不足していること、信用されていないことなど、マイナスのイメージを表すことばにも変わり得ます。私たち教会は、新型コロナウイルスとその影響に対しては、未経験でどうしてよいかわからないエレミヤと同じです。

しかし、主は、エレミヤが「若い」ことを問題になさいませんでした。敵を恐れているエレミヤとともにいてくださると約束してくださり、語ることばをお与えになります。そのことばによって主は「引き抜き、引き倒し、滅ぼし、壊し、建て、また植える」ことを実行されます。主は将来を楽観するユダを容赦なく引き抜き滅ぼされる一方、将来を絶望視する者に対しては、もう一度建て、植え直してくださると約束されます。こうして苦難の中でユダを造り変えていかれます。

誰もいない会堂でしばらく日曜日の礼拝を捧げる中、与えられた光の一つは、主が私たち教会を建て直そうとしておられるということでした。主は、この機会を通し、キリストのからだである教会を引き抜き、また植え直そうとしておられます。そこには紛れもなく主の愛のお心があります。主が造り変えてくださる下半期の営みに望みを抱いて前進いたしましょう。

目次

引き抜き…また植えるために……寺村秀嗣……1
第75次事務年会報告、開会礼拝説教要旨……2
新型コロナウイルスと教会、ポストコロナは?……3
海外トピックス、国内教会局、読書のひろば……4
とにキャンの解説、この夏を乗り切る、燭台……5
広げた翼……6～8
聖宣神学院報……9～11
公報、消息……12

Immanuel

第75次事務年会 報告

6月8日、オンラインでの年会

次世代へ 心を合わせて

共通理解形成の時に

京都伏見教会　大兼久芳規

今年の第75次年会は、久しぶりの神学院開催、特にファミリー年会として、聖会Ⅱでは「とにキャン世代」の働きを共にできると楽しみにしていました。しかし新型コロナウイルス拡大のため3月に集まっての開催が許されず、その代わりに6月8日、主事の先生方を中心に34名でZoomを用いた年会がもたれました。事務年会の備えとして各教区・主事から質問・意見をメールで受け付け、それに対する回答がなされました。

来年には第22次教団総会もあり、大切なことを話し合わなければならない年会でしたが、このような初めての形態のため心配もありました。しかし多くの意見交換や討議がなされて、年会を無事越えられた安堵が与えられています。

道が閉ざされたときは、新しい道を備えてくださる主です。この方を見上げつつ進み出しました。

年会資料に基づき、代表・各局からの説明に出席者からの質疑、また応答がなされました。

▼神学院

理事会制度は、神学院の透明で公平な運営の必要性から検討されているものです。神学院運営委員会から、間もなく具体的な条例改定案が提出される予定です。

▼信徒局

エリア制の区分で東日本の広さが問われました。信徒局としては、関東の教会が震災を経験された東北の教会との交わりを深めることで相互の励まし、支えとなることを期待しています。エリア制はその先に各地域での信徒フォーラム開催が考慮されています。この働きを通して信徒間の交流が深められることを願っています。今年はその準備の年として各地の信徒の方々と意見交換をし、相互の理解を図ります。エリア担当者を選任するときも、主任牧師の理解とともに進めていきたいと願います。

▼条例改定方針

条例改正の基本的なコンセプトは「10年先を見据えて」です。働き人の高齢化・減少には実際的な対策が必要ですし、2030年問題や今回の新型コロナウイルスのような突発的なことにも柔軟に対処していく必要があります。

▼第22次総会

総会開催時期は2021年2月11~12日です。ただし今後の社会状況をみながら開催を判断します。

▼運営委員会とBA

BAが教団運営委員会のメンバーから外れることに対しては、国内局委員会を頻繁に持つことにより、各教区からの声を教団運営委員会に届けるよう十分な配慮をします。また必要な場合にはオブザーバーとして教団運営委員会に出席できるように考えていきます。今後も、よりふさわしいBAの役割ついて検討していきます。これは総会議案ですので、まだ決定ではなく検討中の課題です。

▼組織改革検討チーム

今後10年での牧師数の減少に伴い、体制の刷新・変革が避けられません。しかし、現状では目の前の課題に取り組むことに追われ、今後のビジョンと方針という大切な働きに向ける時間が多く取れない状況です。そのため組織改革・体制作りなどは組織改革検討チームにゆだね、教団運営委員会はより緊急性のある課題に集中できるような体制にしていきます。

組織改革検討チームは、次世代を担う方々の目線で検討していただくよう考慮してメンバーの任命がなされました。

▼国内教会局

コロナウイルスの感染拡大によって、多くの教会で礼拝ができない状況が続きました。しかし信仰者が家庭で守る礼拝も、教会と同じように尊い礼拝です。今も集うことの許されない方々には、より丁寧な対応をお願いします。これらが宣教の後退になるのではなく、さらに主の働きが前進するよう信じ、期待したいと思います。

事務年会 開会礼拝説教 要旨

私たちの可能性はどこに……

苦しみが教会の真価を示す

教団代表　内山　勝

「さて、ステパノのことから起こった迫害により散らされた人々は、フェニキア、キプロス、アンティオキアまで進んで行ったが、ユダヤ人以外の人には、だれにもみことばを語らなかった。ところが、……アンティオキアに来ると、ギリシア語を話す人たちにも語りかけ、主イエスの福音を宣べ伝えた。そして、主の御手が彼らとともにあったので、大勢の人が信じて主に立ち返った。」

（使徒の働き一一・19~21）

去る6月8日、第75次事務年会がオンラインで行われました。2月の時点では、新型ウイルスの影響がこんなに長期化するとは予想もしていませんでしたが、皆さまのお祈りとご協力のゆえに、必要な議事を全て終えることができたことを感謝しています。

ウイルス感染はまだ収束の兆しもなく長期化する様相です。社会全体にさらに打撃が加えられることが予想され、教会もその例外ではありません。けれども、共に苦しむ中で、教会は社会に対して、癒しと希望をもたらす存在となることができると信じます。

人は追い詰められた時に本性をさらけ出すものです。私たちは、自分のいのちを危険にさらしつつ感染して苦しむ人々のケアをする医療従事者たちの麗しい姿を見ました。と同時に、感染した方や家族、医療従事者たちに、差別的な態度を示す人々の醜い姿をも垣間見ました。同様に教会も、今こそ真価を試されているのでしょう。

初代教会は、私たちより遥かに激しい試練を経験しました。ステパノの殉教をきっかけにして起こった迫害によって、多くの信徒たちがエルサレムから追放されました。仕事や住む家、教会を一度に失った彼らは、どんなにショックを受けたことでしょうか。しかし、彼らは苦しみながらも、周りの人々に福音を伝え続けました。そして、アンティオケアまで来た人たちの何人かが、異邦人に福音を伝えたというのです。その結果、以前とは異なる新しいタイプの教会が誕生し、世界宣教の先駆けとなりました。

注目すべきなのは、彼らが、宣教方策として異邦人伝道を選んだ訳ではなかったということです。「救われた喜び」という彼らの本性?が、そうさせたのです。これこそが、私たちの可能性であり、主の恵みではないでしょうか。

新型コロナウイルスと教会

この事態から何を学ぶか

一歩踏み出す勇気と努力
将来を見据えた視点を

高津教会　藤本　満

●神の憐れみに守られた

教会の危機意識は低かったのではないでしょうか。ウイルス感染の危機の報道を目にするようになったのは、1月の終わり。そして2月の中旬に東京の屋形船、続いて大阪のライブハウスでクラスターが発生。その頃、韓国では新興宗教施設で二千人の集団感染。

私は2月の第三聖日、説教を聞く立場で会衆席に座っていました。まさに教会はライブハウス。直ぐに連絡を回して、可能な限りネットで礼拝することにしました。

3月中頃、カナダで悲しい出来事がありました。感染が拡大していく中、牧師は迷った末に計画されていた記念集会を開催。消毒やソーシャルディスタンスを守ったものの41名のうち24名が感染、2名が死亡。「あの日に戻ってやり直したい」、牧師は涙していました。

医療・介護従事者は必死の奮闘をしてくださり日本を守りました。教会にも多くおられる関係者の方々、ありがとうございました。

●聖霊に押し出される

数十万人の感染者を出した国と2万人弱の日本では状況が違います。コロナを克服するには集団免疫力をつける以外にないと言われています。ワクチン等の開発と共に状況は沈静化に向かうのかもしれません。今回の反省と共に、将来に向けて考えることはあります。

教会はなんでも「実際に」集まることを前提としてきました。礼拝、祈祷会、教育、会議。しかし、遠隔地にいながら集まることが「できる」環境をインターネットはすでに実現しています。利用するかしないかは、私たち次第だったのです。

積極的に乗り出してみる。一般社会で、会議や教育がオンラインでできるのに、私たちができないはずはありません。

感染症対策のための「その場しのぎ」でなく、コロナに押し出されて、いや聖霊に押し出されて新たな可能性を探る。それは、特に信徒の方々に求められています。私たち牧師は得意ではありませんITのこともスマホ文化もSNSもよくわかりません。よく知っている皆さんが、牧師たちに教えてください。中高生の聖会だってできる！と。（とにキャンのように）

●やがて集えない時が来る

日本の教会にとって、今回のコロナ禍の延長に2030年問題があります。80代後半になれば、教会に行くことは難しいでしょう。しかし、オンラインで礼拝に参加できます。いまそれを経験しておくことで、人生最後まで礼拝から離れない自分を作り上げることができます。

牧師が引退したり、牧師が教会に常駐していなくても、他の教会と共に礼拝することができます。過疎が進む地域の教会にとって、今回のコロナは新たな活路を開く一助となったはずです。

内山勝先生が数年前にグループ教会制をお考えになりました。どこかの教会の傘下に入るのではない。共に礼拝を守る複数の教会をインターネットで実現していく―そういう意識を培うチャンスであったと思います。

●牧会を重んじる方法

礼拝をインターネットで中継するノウハウがあっても、魂のケアはそうはいきません。私にとっては、この課題がいつも残ります。

今回、信徒同士でオンラインで祈祷会を持っている、ご年配の方が互いに電話で励まし合っているというケースを耳にしました。きめ細かな牧会レターを毎週郵送している先生もおられました。

「距離」とは無関係に、いつもだれかと霊的な交わりがあり、互いに励まし、祈り合う群れをどのように形成していくのか。これは、日本の教会が直面している大きな課題です。私たちはそのことをよく考えるように主から示されたと思うのです。（次回はオンラインの聖餐式について書きます）

コロナ後を考えながら

交わりの大切さを再認識

困難克服の経験値に

佐賀教会　阪下　謙

2020年の上半期、私たちは予想もしなかった事態に直面し、今も全国の教会の多くが大変な状況の中にあります。そのような時にコロナ後の想定は困難ですが、問題点を分析し、ビジョンを持ち、新しいことにチャレンジすることによって、これからの教会の働きに生かすことができればと思います。今回のことを通して感じていることをお分かちします。

①お互いに心を向け、交わりを大切にすること

今回、教会の営みで最も失われたものが交わりではないでしょうか。交わりが希薄になると、教会の力の源である一致が難しくなります。しかしこのような時だからこそ、主が弟子たち一人ひとりに目を留められたように、教会に繋がっている全員がお互いを心にかけながら、祈り合い、声をかけ合うことが大切です。交わりはその必要を感じるところから生み出されるものであると信じます。

②教会間の交わり、情報の共有

それぞれの教会が、祈り、知恵を出し合い、この難局に最善の道を探っています。この貴重な知恵と働きは大きな財産です。情報の共有は恵みの共有に繋がります。他の教会で今取り組んでいる課題が、私たちの教会の3か月後、半年後の課題になるかもしれません。情報を共有することは教会を導く光となるでしょう。

③新しい方法を生み出すこと

宣教師が福音宣教のために犠牲を払い、新しい地を目指したように、私たちが教会の働きを進め、全力で福音を宣べ伝えるために新しい方法を生み出すことが必要です。ビジョンを持ちチャレンジするために、主が私たちを後押ししておられるのではないでしょうか。教会は新しい考え方や方法には消極的になりがちですが、恵みによって、私たちの想像を越えるような考え方や方法を積極的に受け留める寛容さを持ちたいものです。

④教会の苦闘を記録すること

教会の歴史は教会の未来を導く力があります。今後、新薬の開発などでコロナが収まっても、第二、第三のコロナが出てくる可能性があります。その時に主がどのように導かれたか、教会はどうしたのか、どんな反省があったのかなど、経験自体が貴重であり、それらをしっかり記録することは、次の問題の取組みに益となると思います。

コロナで社会が大きく変化しても主は変わらない、これが教会の希望です。

海外トピックス

■死海文書の由来は？「羊皮紙」のDNA調査で謎深まる

死海周辺で発見された古代の聖書写本群「死海文書」のDNA調査で、文書の一部については、発見された砂漠の地域に由来するものではないことが判明したとする研究結果が6月2日、発表されたとAFP通信が報じた。

死海文書の調査は数十年前から継続され、羊皮紙とパピルスの巻物はヘブライ語、ギリシャ語、アラム語で書かれており、世界最古の「十戒」の写本をはじめ、最古級の聖書写本が含まれていることなどが分かっている。イスラエル考古学庁（IAA）の死海文書調査プロジェクトを統括する研究者のプニナ・ショル氏は、「死海文書はすべてヤギの皮に書かれているとこれまで考えられていたが、今回の研究では、羊皮紙の断片の分析を通じて、一部の文書が牛や羊の皮に書かれていたことが明らかになった」と説明。「牛や羊の皮に書かれた写本は、発見地の砂漠に由来するものではないことが分かる」と語った。IAAとテルアビブ大学の研究チームは、13の文書を対象に調査を7年かけて実施した。だが、牛や羊の皮の写本断片がどこに由来するかを突き止めることはできなかった。

■コンピュータを聖書研究に使ったF・アンダースン氏死去

ヘブライ語聖書の構文分析に35年以上を費やし、聖書の文章、句、節の断片を収録して強力なコンピュータ辞書を作成したオーストラリアの聖書学者、フランシス・I・アンダースン氏が5月13日、メルボルンで死去した（94歳）と『シドニー・モーニング・ヘラルド』が報じた。アンダースン氏は1925年7月28日、オーストラリアのクイーンズランド州ワーウィック生まれ。71年、聖書ヘブライ語のテキストの構文解析にコンピュータを利用するシステムの開発に成功。オーストラリア聖公会の指導者で、アンダースンの霊的指導者の1人であったスチュアート・バートン・バベッジ司祭は、アンダースンが「科学の機械を教会と主の御言葉を宣べ伝えるための奉仕に持ち込んだ」と述べている。アンダースン氏は『ティンデル聖書注解』、『アンカー聖書』のハバクク書解説の著者であり、ホセア書、アモス書、ミカ書解説の共著者でもある。（平瀬聡樹）

国内教会局から

教会建設の務めに
教会とは何でしょうか

集まることができない期間を越えて、7月からはほとんどの教会で集会が再開されていると思います。ここでもう一度教会とは何かを捉え直したいと思います。

日本語の「教会」ではキリスト教の教えを説く会と理解されています。この言葉は教会の本質を十分に表していません。教会はギリシャ語ではエクレーシアと言います。意味は神によりキリストの十字架の贖いを通してこの世から呼び出された者たちの集まりです。特にキリストの血によって贖われた神のものとなった人々の集まりです。私たちは神のものだということです。そのお互いが神にあって集まっているのが教会です。集まれないのはある意味で致命的です。しかし、大丈夫です。なぜならその集まりは聖霊によって支えられるからです。集まれないからこそ集まることの大切さを味わい、お互いのために祈り、霊を一つにするのです。こうして教会は「教会」として成長します。

読書のひろば

ハラスメントを起こさないために
聖なる教会を目ざして

インマヌエル人権委員会編著

出版事業部扱い

定価五〇〇円＋税

小冊子の初めに作成の背景、目的、使い方が述べられ、次いで「ハラスメントはどのようなことですか？」「ハラスメントはどうして起こるのですか？」「ハラスメントを起こさないためにはどうしたらよいでしょうか？」「セクハラを受けた方のために？」と質問と答が重ねられて進められます。

小冊子を読み終え、改めて私は知らなかったと思いました。同時に「聖なる教会を目ざして」という冊子名を理解できました。

ハラスメントは昔から存在しながらも手をつけられず、時代が進んで今、表舞台に取り上げられた重大な課題の一つだと思います。

この課題が私たちの前に置かれたのは『一人の滅びることも願われない』神さまが、時代の現実を弁えて宣教、教会建設をするように向き合わせて下さったと思いました。聖なる教会建設（主が願われる教会建設）を目指すなら目をそむけることができない問題です。

読むうちにまるで自分を映す鏡の前に立たされている気がしました。決して他人事ではなく、誰にでも当てはまります。そのため先ず謙虚な心で、自分の事として読むことです。そこに映し出される自分のありのままの姿を認めることが何より必要であると思います。

引用されたみことばから教会内でどうあるべきか、また専門家でなければ立ち入ってはいけない領域があることを教えられます。牧師・信徒相互関係での具体的な問題点や助言もあります。繰り返される「人格の尊厳」「健全」「謙遜」の言葉はとても重たいものです。

ハラスメントは重大な結果を招き、どこでも、だれにでも起こり得ます。これを起こさないために正しく弁え、成し得る事をし続けて行く必要を教えられます。

この小冊子を繰り返し読み、みことばを開きながら主の前に自らを吟味し、恵みを祈り求める必要も感じました。聖なる教会建設も、そしてこのハラスメントの問題も主の心を持たせて頂かなければ取り組みきれないと思いました。内容を通して、自らの在り方が問われていると感じました。（黛睦子）

今年の「とにキャンは」…

オンラインでの「とにキャン」

8月10日(月)午前・午後

仙台教会　細田恒太郎

今年のとにキャンは、コロナ禍の状況を考慮し、Zoomを用いてオンラインで開催することになりました。オンラインでの集会などこれまで考えたこともありませんでしたが、厳しい状況に押し出され、止む無く、こうした形での開催となりました。しかし準備をする中に新しい可能性の広がりを感じています。

①これまでは距離の問題や4日間の日程の関係で参加が難しかった方がいましたが、今回は、地域に関係なく参加することができます。②とにキャン後のフォローアップとして、各地域でとにフェスが実施されてきました。地域によってはそうした集会がなく、1年を過ごさなければなりませんでしたが、今後オンラインでのフォローアップ集会を持つことも可能性として検討されています。通常の形で開催できないことはたいへん残念ですが、すべてのことを働かせて益としてくださる主が、こうした営みの中にも新しい広がりを見せて下さることを期待し今年ならではのとにキャンを楽しんで頂きたいと願っています。

今年は8月10日（月・祝）に午前と午後、中学生と高校生で別れて開催されます。講師は同盟教団の朝岡勝師をお迎えし、それぞれの対象にあわせてメッセージを語って頂く予定です。また全国の同学年の子と仲良くなれるようグループ別のゲームや分かち合いなども準備されています。それぞれに良き信仰の友が与えられるよう、祈りつつ、ぜひ周りの中高生に出席をお声掛けください。

今回は、グループに分かれてゲームや分かち合いを行うため、ひとり一台のスマホやパソコンが必要になります。中学生などではスマホやタブレットを持っていない子もいるかもしれませんし、使い慣れていない子もいるかと思います。保護者の方や教会で器機を補って頂くことになると思います。また機器を使い慣れている方にはぜひ積極的に操作やセッティングなどを助けて頂きたいと願っています。

今年はコロナの影響で教会も学校も多くのイベント、行事、大会が中止に追い込まれました。こうした流れはしばらく続くと考えられます。そうした中、夏のとにキャンが子どもたちにとって楽しいリフレッシュの時となり、信仰の交わり、信仰の成長の良き機会となりますよう覚えてお祈りください。

夏期聖会の季節を迎えますが……

それでも神さまの恵みは十分です

国内教会局長　岩上祝仁

「しかし、主は「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さの中に完全に現されるからである。」と言われました。」（Ⅱコリント一二・9）

新型コロナウイルスのために夏から秋の聖会や集会もほとんどが中止となりました。

そんな時、心に留めたいのは次の2つです。先ず、今まで当たり前の様に教会で集まれたのは、神の恵みによるものだった。特別なことであった。与えられていた日常が主の恵みによることを改めて味わいましょう。

次に失ったものを嘆くのではなく、いま与えられている神の恵みに目を向けましょう。聖書はこんなふうに語っています。失われた聖会や霊の養いの機会を嘆くだけはなく、私たちにいま与えられている神の恵みに目を向けるようにと勧めます。そして神ご自身が「わたしの恵みはあなたに十分である」と語っておられる言葉に耳を傾けましょう。私たちがこの状況の中でも信仰の歩みを前進させるのに十分な恵みを主は備えていてくださるお方です。

燭台

オンライン礼拝

◆ここ郡山でも、コロナ感染防止のために2月頃から集会をどのようにするべきか試行錯誤を重ねながら礼拝だけは4月12日まで続け、全国に「非常事態宣言」が出てからは、すべての集会を中止し信徒の皆さまには自宅で集会を持つようにお願いしました◆その礼拝の一助になればと、教会はオンラインによる礼拝説教の準備に取りかかりました。そうしたことに明るい兄弟が事前に準備をし、録音の後には編集をしてアドレスと共に牧師に届けるという奉仕をずっと続けてくださいました◆4月18日の土曜日に初めての説教が私のスマートフォンに送られてきました。早速私は、そのアドレスに指一本で触れてみました。すると、一瞬にしてユーチューブに繋がり、説教者の姿が画面に現れたのです。音声もはっきりしており、時間も長くはありません。こうしたアクセスが苦手な私には感動的でした。スマートフォンであればパソコンのように開く手間も要らず携帯にも便利です。何より知らせてくれた方法が簡単で、誰でもどこででもすぐ説教が聞けます。これならばうちの教会の方々はほとんど参加できると思いました。こういう機器を使わない方のためには、説教要旨を作り、それを礼拝のプログラム、祈祷会や伝道会の聖句、讃美歌などと共に週報に載せ、聖日前に着くよう、会員の皆さんに郵送しました。CSのためにもお話や教材を準備しました。その間ずっとIT機器や電話は正常で、郵便の遅配も全く無かったことは幸いでした。そして皆さんは礼拝とともに他の集会も守り恵まれていたと思います。しかしその2か月には2名の兄姉が召天され葬儀もありました◆「解除」が出て、改修工事で明るくなった会堂にコロナで自粛中の方々以外の教会員が集ったのは5月14日でした◆ソーシャルディスタンスを考慮すると使わざるを得ない別館には、テレビがあり以前から会堂の礼拝が映るようにセットしてあります。先日それを見た時に思い出したのがオンライン礼拝でした。でも私にとって、それはもう過去のことです。今はまた新しい状況の中で、どうすれば最善の礼拝が捧げられるかに心は向いているからです（詩篇九一）。

久保以津子

広げた翼

Immanuel His Wings

Department of World Missions

http://www.immanuel.or.jp/world/

世界宣教局

巻頭言

閉ざされた中にも

世界宣教局
蔦田 敬子

「どんなことがあっても、……脅かされることはない、と。……それは神によることです。」
（ピリピ一章28節）

春を迎えた、という感触に気づかないうちに夏になってしまったような気がしています。「自粛要請」「警戒宣言」「解除」「アラート」……色々な言葉が飛び交い、教会も教団もその時々の対応を迫られることになりました。世界大に広がった問題に様々な対応がなされ、時には正反対の対応がなされることも出てきます。思う結果が出ないと批判、非難の嵐。と言っても、非難する側も正解を持っているわけではない。混乱の中、疲れ切ってしまう空気の一方で、新しいことに挑戦して創意工夫を楽しむ人々もあり、考えさせられました。

想定を超えた困難な状況の中で、状況を変えようとする闘いと努力には敬意を表したいと思います。しかし、罪人の世界にあっては、神の国のような完全な秩序を望めないということもまた現実です。状況を変える闘いとともに、状況に拘らず変わらない自らの在り方を知ることの尊さを、またしても思うのです。

聖書には、迫害や戦いなどによって囚人あるいは捕虜として自由を奪われたり、異国で生活するようになる人々もたくさん登場します。しかし、エジプトへ売られたヨセフはそれを後に「良いことのための計らい」と頷き、異国での立場を得たエステルは「このような時のためかも」と語られ、パウロは自分の投獄を「福音の前進に役立った」と書いています。「どんな境遇にあっても満足することを学びました」（ピリピ四・11～13）というパウロの告白の根拠は、「生きることはキリスト、死ぬことは益です」（同一・21）という信仰です。主とともに生きる人生の中で、苦しいことや理解できないことにも遭遇することでしょう。しかし、「キリスト」という御方を真ん中に崇めて受け取る時に、どんな境遇に置かれても「ここでしかできないこと」「今だからできること」「このような状況だから出会う人々」があり、一つひとつに意味があることを信じて進めるのではないでしょうか。

「新しい日常」と言われるまでもなく、私たちは常に後戻りできない変化の中を歩んでいます。その中で、変わらない御方による「新しさ」を経験し、発見し、喜ぶ者でありたいと思います。

KENYA

ケニア・テヌウェク

蔦田就子＊2020年6月10日

お祈りを感謝致します。ナイロビを中心に新型ウイルスの感染者の増加が報告され、拡大が懸念されています。一方で、期間が長くなってきたせいか、マスク着用や面会制限等ゆるみが見られます。最近スタッフから、病院から少し離れた場所では、「あれはナイロビでの話」と最初からマスク着用や手洗いの励行はされていないと聞きました。「一日百シリングの予算の中で、五十シリング前後する布マスクの優先順位は？　さらに加えて入手が困難だから」という説明もありました。国としては6月6日まで延長された都市封鎖や夜間外出禁止令は、時間帯の多少の縮小はあったものの、再度延長されることになりました。

先日、ATMのため7キロ先のボメットの町に遠出の許可を頂いて行こうとしたら自宅待機しすぎてバッテリーが完全に上がっていました。近所のドクターの車から再充電してようやくとなりました。

予定手術等を減らして、かつ病院全体の方針としても出勤するスタッフの数を減らしていた手術室ですが、もともと緊急や準緊急手術が多く、あまり劇的に件数は減っていません。最近、この状況で閉鎖してしまった病院からの患者さんの流入が増えてきています。陽性の患者さんが来られた時の手術や分娩や防護用の着替え用に仕切りを設けた場所を、今までの回復室や処置室として再開させてほしいというプレッシャー、今度こそ陽性の患者さんが急増する可能性が濃くなってきたプレッシャーとのバランスに、知恵が必要です。

最近、麻酔科のスタッフが一人雇用され、感謝です。

先日、副主任が、「なかなかはっきりお礼を言う機会がないけれど、病理検査用の空容器を送って下さっている方々にくれぐれも宜しくと、『ありがとう』をしっかり伝えてください」と声をかけてきました。先日、他の病院の手術室で働いている友人と話す機会があり、他の病院では、手術の決まった患者さんが、あちこち回ってバケツなどをそれ用に自分で買ってきて、それから入院、となるそうです。「テヌウェク病院では、あらかじめ届いているものからサイズを選ぶだけだけど……」と返事をして、それがいかに恵まれたことであるかに気づいたそうです。改めて、日本からの空容器のサポート、ほんとうにありがとうございます。■

TAIWAN

台　湾

平瀬義樹･光世＊2020年6月10日

台湾では6月7日までに、海外渡航歴者以外の新型コロナウィルス感染者が56日連続で確認されず、落ち着きを見せたことから、感染対策として設けられていた様々な制限が大幅に緩和されました。例えば、公共交通機関利用時の検温やマスク着用、店外での整列時、入店時の検温・消毒、店内での飲食の際のソーシャルディスタンス確保や各種防疫対策、50人を越える屋内でのイベント、活動（教会活動も含む）などは一定の条件のもとで許されるようになりました。世界のニュースでも取り上げられましたが、コロナショック以降、世界で最初に観戦可能なプロ野球試合も、座席と座席の間隔を空けながら再開しました。制限中は、違反者への警告や罰金などが科せられましたが、それらは解除されたのでなくなりました。しかし、台湾の街中では、第二波を警戒して、各々、またお店ごとに防疫対策を続けているところも多く見受けられます。また注目されていた、実名制マスクの購入（2週間に大人9枚、子ども12枚、1枚15円）は、継続して購入ができますが、これまでの政府完全管理から、一般の店舗や薬局でも、箱売りで販売可能となりました。

台中教会は小規模の集いですので、厳密な制限はありませんでしたが、ご高齢や持病で弱さを覚えておられたり、ご家族が医療関係者や食品を扱う会社だったりする場合は、各自で判断し来会を控えておられる方々もいらっしゃいました。

台南聖教会で、毎週午後もたれている「台南日本語礼拝」は、5月第二聖日に2周年を迎えました。本来は、礼拝後に記念会をする予定でしたが、今年はコロナ禍にあるので、軽食のお持ち帰りを各自いただきました。この箱の中には、日本の教会から捧げられた教会学校用のみことばカードを入れ、皆さんにたいへん喜ばれました。

日本に送り出したわが家の子どもたちのためにお祈りをいただきありがとうございます。緊急事態宣言を受けて、明里は大学の入寮と入学、勝大は入学・登校が延期となり、在宅（親戚宅）にて自粛生活を続けています。そして、ようやくこれから学校生活が開始されるようですが、二人にとっては、日本での初めての学校生活がゆっくりスタートできることは、それもまた主の恵み、憐みだと感じています。感謝。■

ZAMBIA

ザンビア

根廻恵子＊2020年5月29日

主の御名を賛美します。5月はさらに温かくなり、日によっては暑い日もありました。新型コロナウイルス感染症のため外出自粛が続き、外に出て思いっきり春を感じるということが全くできない月でした。そのような中にあっても混雑時間や人混みを避けて、運動を兼ねて散歩に行くことができました。感謝でした。ザンビアへの再赴任が延期されており、日本での時間が与えられ、自粛の中でもみことばに触れ、感謝です。

今回の再赴任延期の期間に病院でパートで働くことも許されました。ザンビア派遣以前から働いていた病院です。今回、再赴任延期後も働かせて頂きました。そのパートも5月いっぱいで終了です。看護部長との個人面談で退職の話をする際に証しする機会も与えられました。思いがけない出来事でしたが、神様が自由に語る機会を与えてくださいました。導き続けてくださっている神様の話ができたことはほんとうに感謝でした。今回感染症拡大の中でありましたが、医療現場で働くことができたこと、また守られたことを御名を崇め感謝します。

5月中旬ごろからヨーロッパ、アメリカをはじめとして世界的には感染症のピークを超えたとの見解がなされ、ロックダウンが段階を経ながら徐々に解除され始めました。この解除により第二波、三波と感染症が再び広がりを見せることが心配されますが、経済面での停滞を懸念し世界中が動き始めています。ザンビアでは感染確認数1057名、回復者数779名、死者数7名と日々増加してはいますが、パンデミックは起きていないようです。これらザンビアの状況と世界の動向を見ながら再赴任時期を検討しています。

ジェンボクリニックのスタッフとも連絡をとっています。クリニックは変わりなく働きが続けられています。ジェンボは田舎ということもあり、コロナ感染症はあまり現実的ではないようです。教会は今だに集まれていないようですが。各学校は再開の目処が立っているようです。ただ、田舎の学校であっても地元の生徒だけでなく他州から州を跨いだ移動が始まりますので、今後どのような影響を受けるかは気をつけて見ていきたいと思います。

再赴任への焦る気持ちもありますが、神様の御心を求めて歩んでいきたいと思います。■

ZAMBIA

ザンビア

富澤　香＊2020年6月2日

帰国後の待機期間が終わり、外を歩いて見ました。ワクワクして嬉しくて歩きすぎたのか足が痛くつりやすく体中が痛くなってびっくりしました。確かに動いていなかったとは言え、かなり筋力が落ち体力が落ちているようです。また寒暖の差が激しく、日本の気候に体を順応させるのに時間を要しています。それもやっと慣れてきて今は無理せず少しずつ歩くこと、体操を取り入れ体力の回復につなげることも心がけています。

ザンビアでも新型コロナウイルス感染者確認数が増加傾向にあるようです。首都ルサカや北の町でも増加傾向となっています。どうぞお祈りをお願いします。このような中、世界宣教局局員会があり、Zoomでの出席が許されました。根廻宣教師とともに参加でき、画面でお会いして、感謝でした。実際に会えなくても、画面で意思疎通がかなり図れることにとても感心し、感動しました。■

PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子＊2020年6月9日

フィリピンでは、6月1日より、緊急事態宣言（ロックダウン）の部分的解除がなされましたが、事態は改善に向かうどころか、一日あたりの感染者数が100人から200人だった数が、3~5倍に膨れあがり、一日あたりの回復者数は100~150人と変わらず、悪化の一途を辿っています。

8月の新学期開始に向け、どのように授業を進めていくのか大学職員の先生方は暗中模索の中にあります。そこで4月より常喜が、解決策の一つとして学習管理システムの導入を校長と学監に提案し、了承を頂き進めて来ました。このシステム導入のために、グーグルから政府認可の教育機関に無料で提供される教育サービスに申請したところ、最終審査の段階で、学校のホームページ提示を要求されました。自分でホームページを作成しようかとも思案していた丁度その時に、恭子の友人（ウェブデザイナー）がボランティアで手伝ってくれることとなりました。最終的に、システム導入とホームページ作成の企画をまとめ、会議が開くことができないため一人ひとりの職員を訪問し説明し、全員の同意を頂き、企画を進めることになりました。現時点で、ホームページは完成し、公開するところまで進み、グーグルに再申請しているところです。

長らく延期されていた職員会議が今月末に開くことができました。Zoom会議をしてはどうかと提案しましたが、どうしても対面での会議を望まれ、ここまで延期されてきました。緊急事態下における対面での会議は十人までが限度のため、校長アレックス先生による発案で教室とチャペルの間にある格子を境にし、職員をそれぞれ振り分け、ソーシャルディスタンスを保ちながら、対面での会議を開きました。

私たちが働く聖書大学は、他の教育機関同様に大きなチャレンジを受けています。政府の方針は、柔軟な学習指導を大学に要請しています。この「柔軟な学習指導」とは、オンライン、オンデマンド、ホームスクーリングなどの形態を用い、学生たちの実情に合わせた指導を心がけるという提案です。今回の会議で、恭子がパワーポイントを使って、聖書大学の実情を踏まえた学習スタイル、また予算などについて具体的に提示しました。その提案を土台に、ある程度のことを、議論することができたことは感謝でした。ニューノーマルな形で迎えようとする新学期に神様の知恵と助けがあることを祈るばかりです。

汚水を処理する腐敗槽（セプティックタンク）を増設しました。以前よりゲストルーム側の下水管が詰まりやすくなり、トイレ・浴室の利用者に不便をおかけしていました。原因の一つは、腐敗槽までの下水管の長さと傾度の問題がありました。そこで、話し合った結果、ゲストルーム側のトイレ・浴室の裏側に腐敗槽を増設することにしました。営繕係ジョージさんと学生たちが二メートルほどの深さの穴を掘り、そこにハロブロックを、セメントコンクリートで固めながら積み上げ、腐敗槽を設置しました。これで心置きなくゲストを迎えることができるようになりました。

■会計報告5月分

宣教献金　二、〇四〇、九〇九円

月平均　一、七二九、九二〇円

お祈りの課題

ザンビア（富澤）

◆コロナの受け入れと切り替えと終息、特に発展途上国のため

◆ジェンボクリニックが守られるように

◆体力の回復のため

ザンビア（根廻）

◆病院での働きが無事に終えられた恵み

◆再赴任がゆるされるように

台湾（平瀬）

◆猛烈な暑さ、高温超多湿の時期を迎えました。台中教会・台南日本語礼拝の集会を続けて、守ることができますように

◆教会メンバーが戻りつつあります。これまで来れなかった方々が教会の交わりに回復することができますように

◆台湾の政治や経済、治安の安定のために。蔡総統を始め、国のリーダーたちのため

◆私たちの健康と生活が守られ、子どもたちの日本での生活が守られますように。日本でも学校が始まりました。初めて日本の梅雨を迎えます。（7月10日ビザの更新のためにお祈り下さい）

香港（鹿島）

◆創立十一周年記念感謝礼拝が献げられたことと12年目の歩みのため

◆大陸への出入りが出来ません。以前の働きが続けられるように

◆コロナ以後の香港の経済回復と去年より続いている政治的な課題のため

フィリピン（豊田）

◆夏休み中の学生たちの健康と霊性、大学職員の8月新学期に向けての準備のため

◆ウェスレアン教会の牧師とその家族の経済的、精神的必要のため

◆事故、事件、怪我、災害、疫病から家族が守られますように

ケニア（鳶田就子）

◆ウイルスから守られている感謝

◆マラリア、新型ウイルス、イナゴ、テロ等から守られ、また対処できるように

◆麻酔科、整形外科を始めとする働き人（ルカ一〇・2）が起こされるように

カンボジア（鳶田緑乃）

◆解除されていない集会禁止令のもと、御言の伝達に余念なく労し、土・日のメッセージの配信がなされています。特に地方の牧師方のため。インターネットも活用できない農村の働きが続けられますように

◆プノンペン市内の教会建設・伝道活動、ヴァンディ師とグレッグ師による2つの教会の救霊と宣教のため。会員たちの職がコロナの影響で失われている中、彼らの信仰が不安定な社会の中にあって真の霊的経験に導かれるように

◆新しい場所での生活がまだ落ち着かない状況にある鳶田のため。カンボジアへの道が開かれ、御奉仕に当ることができる健康が支えられるように

聖宣神学院報

Immanuel Bible Training College

自分たちの召しのこと

院長●林　正弘

「兄弟たち、自分たちの召しのことを考えてみなさい。……しかし神は、……選ばれたのです。」（Ⅰコリント一・26～28）

＊

私たちは自分の無力さを痛感することがあります。その連続かもしれません。学びにおいても奉仕においても、信仰者としてさまざまな問題課題に直面するときにも、もうだめだと絶望することがありえます。しかし、そのとき自分自身に問いかけます。「そもそも自分でできる、うまくやれると思っていたのか」と。そして気付かされます。「自分は主から離れては何もできない、何かできたとすれば、それはすべて恵みなのだ。」

当たり前のことかもしれませんが、この確認は大切です。パウロは、コリントの信者たちに、「自分たちの召しのことを考えてみなさい」と語りかけています。人間的に見て良いところはあまりない、むしろ良くないところが多い、「無に等しい」とまで言っています。ここで言われている「召し」とは、救いに招かれてクリスチャンとされていることです。「何ゆえわれさえ」との讃美歌のように、どうして召されたのかは知り得ません。罪人であり、神の子どもとされる理由は何一つありません。ただ恵みによって救われました。まして、主の働きのために召される理由など全くないのです。そこに神の知恵があります。

聖書は、自分自身については悲観的に見るように勧めます。しかしこの悲観は、失望落胆に終わりません。この箇所は「誇る者は主を誇れ」で締めくくられます。肩を落とすのでなく胸を張るのです。もちろん、神の御前でだれも誇ることはできません。栄光はただ神のものです。しかし、私たちがキリストのうちにある者とされ、キリストがすべてのすべてであるとき、私たちは心から喜んで主を誇ることができます。

自分を見ては悲観しかありません。しかし主を見上げ、希望をもって進んで行きたいと思います。

神学院キャンパス　左がウェスレーチャペル

神学エッセー

教会音楽概論 2

礼拝における賛美

河村みち

聖書に基づいた神学的な理解で礼拝を組み立てていれば、それは形式的な意味での正解といえるかもしれません。教会はより良い礼拝を目指して成長を続けてきました。ですので、礼拝の質の向上について「賛美」という観点から考えていけたらと思っています。

歴史的にも、音楽は神的なものと絶えず結びついてきました。ピアニストで哲学者のヴィタリー・マルグリスの言葉に「たとい無神論者であっても、演奏している時に、実は祈りを捧げているのだ、ということをピアニストは実感していない」と言っています。

また芸術は人間の本性の改善に用いられています。（音楽療法や絵画療法など）日本の音楽教育の歴史でも音楽はもともと徳育のジャンルでした。ところが、軍歌などで戦争を煽り、音楽によって人々がコントロールされた反省から、「知」に対しては知育（科学）「情」に対しては徳育（道徳及び宗教）と位置づけが変わりました。

私たちは感覚器官による神理解、神経験を常に警戒してきました。感情や感覚を不確かなものとして危険視し、排除の傾向にあります。聖霊派とは一線を画しています。ですが「霊的」という言葉を盾に自分の感覚を押し付け合うという混乱をもたらしたことも否めません。聖霊に満たされてない、己に死んでないという、牧師の主観が奉仕者を苦しめていたことを思い出します。それらは情動的部分の考察を無視したために起きた勘違いだったと今では思います。

情動的部分の考察は音楽によって起こる様々な現象を脳科学や社会学的に分析されているものも出てきました。ただ魂の問題は脳科学では測れないのも事実です。脳神経外科医のエベン・アレクサンダー医師は、ご自身の臨死体験から、生きているときは霊と脳が連動していて霊が肉体から離れるときに、脳との連動は切れることが確認されていると述べています。

礼拝における賛美は、これらのことを踏まえつつ、プログラムを立て、奉仕者を立て、礼拝者として一人ひとりが育ってゆく必要があります。礼拝において、特に「賛美」に関しては、改善の余地があり、これから礼拝を豊かなものにしていくために大切な分野だと考えています。私たちの礼拝に参加して、何かを（神を）感じていただけたならそれこそ伝道でもあるのではないでしょうか。

◆前期の学びの中で

知性を尽くし考える

正規コース　林　眞光

「イエスは彼に言われた。『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。』」マタイ二二・37

新型コロナウイルスの影響で5月中旬からオンラインでの授業が始まりました。例年とは違う形でのスタートにはなりましたが授業が始まり、学びができていることを感謝いたします。

4月から新しい生活をしていく中で、自分の中に一つ課題を見つけました。それは「自由を与えられている中でどのように神様に従っていくか」です。

私は神学院に入学する前会社員として働いていました。その時は大体週に5日間、日中は仕事をしていて仕事が休みの時以外は自由な時間があまりありませんでした。しかし神学院に入学して自由な時間がとても増えました。

このように環境が変わり自由な時間が与えられたときに、自分はやるべきことではなくて、自分のしたいことだけを行ってしまうという弱さがあることに気づきました。「今はこれをするべきだ」と分かっていても目先の自分のやりたいことを優先してしまうのです。

そのような状態になるたびにいっそ自由ではなく、何か決まりだとかに縛られるほうが楽だと思っていました。

しかし神様はそのようなことは望んでいないと教えられました。授業の中で神様は私たちに自由意思を与えて下さっていて、私たちが考えて決定することを尊重して下さることを学びました。私は決まりや規則に従って歩むほうが楽で、自分もそれで満足できると思っていました。しかし神様は私に自由意思を与えて下さって、自分で考えて神様に従おうとすることを喜ばれます。これからは神様が私に何を求めているのだろうか、何が喜ばれることなのかを考え、歩んでいきたいと思います。

◆前期の学びの中で

安心して絶望する

聴講生　矢代ゆう

「ラマで声が聞こえる。嘆きとむせび泣きが。ラケルが泣いている。その子らのゆえに。慰めを拒んでいる。その子らのゆえに。子らがもういないからだ。」（エレミヤ三一・15）

皆様に支えられて、2019年度後期は牧会カウンセリングを学ばせていただきました。そこで人の苦悩に寄り添うとはどういうことか、考える機会をいただきました。ところで、日本には慢性疼痛患者が二百万人いると聞いたことがあります。私もそのひとりです。

原因不明で治療法がないといわれ続け、病院を探しさまよい、社会からは無理しないで良くなるまで休んでくださいと言われ、行き場所をなくした結果、笑顔の仮面で痛みを押さえ込む。そんな方々に一体どのように寄り添うことができるのか考えさせられました。それを同病の友に話すと「訴える痛みをそのまま信じてほしい。解決してほしいわけじゃない」との言葉をいただきました。

支援したいけれど何の役にも立てないことを認め、共に行き詰る。まるで開花の春を待つ花のように、お仕着せの慰めで蕾をこじ開けるなら、花は朽ちてしまうでしょう。その人にとっての、春を待つ忍耐深い聴き手に、私はどうしたらなれるでしょうか。私はまず自らの痛みを教材に、主を待ち望むことを学びます。「あなたの将来には望みがある。」（エレミヤ三一・17）と主は語られました。

正真正銘の絶望。それをそのまま安心して語り合えるとき、不思議な「笑い」が生まれるという経験をしてきました。

痛みを押し殺すための仮面をゆっくりと解き、素顔で語り合うことができたとき、小さな希望の種が、この混乱する世に蒔かれたことを信じたいと思います。

◆前期の学びの中で

失くした指輪

短期コース　田中利道

「探しなさい。そうすれば見つかります。」（マタイ七・7）

貴いお祈りとお支えを感謝いたします。

朝、目が覚めたら手に違和感があったので、見ると指輪がないことに気が付きました。ところがどこで失くしたのか思い出せないのです。以前にも沖縄の実習のとき、頭を洗っていた時に指輪が外れてしまったことを思い出しました。急いで風呂場を捜索しましたが、見つかりませんでした。水まわりのキッチン、トイレ、洗面台。浴槽の中をくまなく探しましたが見つかりませんでした。その時「探しなさい、そうすれば見つかります」というみことばを思い出したので、祈りながらもう一度探しましたが見つかりませんでした。すると内なる声がこう言うのです。「後であなたは見つけるだろう」と。でも、私はどこかで指輪を買うつもりになっていました。その日は風呂の水を交換する日だったので水を替え、ふと床を見ると、丸い指輪が落ちているのに気が付きました。あれだけ探したのに見つからなかったのに見つけたのです。まったく信じていなかった。もう買うつもりだったのです。

使徒の働きの中にペテロの釈放の記事が載っています。ルダは戸を開けることなく、弟子たちに知らせに飛んで行きました。ところが弟子たちはあれだけ祈っていたのに、だれもペテロの釈放を信じていませんでした。その時、教えられました。ああ、からし種の信仰でいいんだ。大きな信仰は必要ないんだ。むしろ邪魔だ。神さまを必要としない信仰なんていらないんだ、ということを知りました。

毎日の些細な生活のなかで、神さまがしてくださるということを体験すること。それが神学院での学びなんだということを教えられました。良き学びができますようにと、祈ってください。

私の神学生時代

光と恵みの世界

26期生●黛　睦子

上京5年目の春、退職届を出し、背後の援祷の故に入学願書締め切りの前日に親の許可が出て受験。妹と共に26期生（女子15名）として入学を許されました。全てが新しい環境で学びも訓練も重厚な期間、伝道者としての霊的資質が築かれるための貴重な3年間でした。御前の歩みを中心とする生活は「制作中の器は、彼の手で壊されたが、それは再び陶器師自身の気に入るほかの器に作り替えられる」（エレミヤ一八・4）という光の強い世界でした。真実で真剣な姿の先生方や上級生が捉えている神を私も知りたいという探究心は大でした。合同祈祷会の院長の祈りは神の臨在が近づいて来るようで大きな驚き、感動でした。

神学生が求道者を伴って教会の志道者会に出席するのを見ては「神さま。私に求道者を与えて下さい」と求めました。すると「あなたの家族があなたの求道者だ」と語られその日から使徒の働き一六・31を握って毎日家族親族の救いを祈りました。

ある夜中、衝撃的な夢を見ました。叔母の家族の顔が順番に登場する場面の前で「一人足りない」と思っていると、顔に白布をかけられて横たわる人が眼下にいたのです。衝撃で目覚め、机に座り祈り始めました。祈っていた親族でした。神さまの憐れみや助けを求め続け、最後には「滅ぼさないで下さい！」と聖言を頂くまでは引き下がれない思いで祈っていると『この苦しむ者……嘆くがゆえに我いま起ちてこれを慕いもとむる平安におかん』（詩篇一二・5）と語られ、再び床に戻りました。その後、寮に電話が入りました。母が悲痛な声で「叔母が車にはねられ意識不明の重体で頭部他数か所手術し24時間体制の看護にあるから祈って！」と。夢の中の家族のことで動揺した心に『なんじら心を騒がすな、神を信じ、また我を信ぜよ』のみことばと平安を頂き「あ、大丈夫」と頷きました。妹に話すと直ぐ「この病は死に至らず」を頂いたとのこと、助かることを確信して祈りました。その後二人で叔母を見舞い、祈った時「ありがとう」と振り絞るように言いました。数年後母の通う教会で信仰を持ち受洗しました。夢から始まったあの出来事は、畏るべき神の世界の現実を知らされた体験でした。祈らなかったなら夢のようになったかも知れず、永遠に関わる問題であったと思い今も心が引き締まります。

神学院での学びとご訓練は今も貴重な土台です。

同窓生の近況

54 期生

COG川崎キリスト教会●古波津真琴

小さき者のためにお祈りをいただき感謝いたします。コロナ禍の中、教会は変化を求められるようになりました。今はもっぱらユーチューバー?のような生活を強いられております。メインの礼拝は、YouTubeを使ってのライヴ配信。

ユースは、Zoomというミーティングツールと YouTubeのライヴをかけ合わせて配信。小学生と乳幼児は、それぞれ YouTubeで編集したものをスケジュール公開の方法で配信。その後の分かち合いも、デジタルとアナログをかけ合わせて行っています。祈り会も、Zoomを用いて、午前、夜、ユース、キッズをもっています。同時に、デジタルを苦手とする人たちへの配慮は欠かせません。

デジタル生活は、アナログ（実際に会うこと）への飢え渇きを与えてくれました。普段、与えられていた礼拝・交わりの特権を深く感じています。

家族は、妻悠（62期生）との間に、由衣（6歳）、玲衣（4歳）、新（1歳）が主のあわれみの故に与えられています。Ⅱコリント四・1

神学院スタッフ…恵みの想起

御思いの深さ 詩篇九二・5

図書館　新垣重夫

年会で浦和に何があったのかと訝る方もおられると思います。とにかく83歳の老体が教会の責任の一端を担うことになりました。

主は一つの使命を与えて下さいました。それはこの教会からこの教会の後継者を出すことです。インマヌエルらしくないとのお叱りも受けました。なぜ、献身者が起こらないか。これは青年の問題であり、同時に牧師の問題でもあります。僕は後継者なしでは引退しないと決心しました。これぐらいのモチベーションを持たないと神学院は廃校になってしまうと思ったからです。感謝なことに老体ではありますが健康です。30年前に三森先生が神学院での奉仕に誘ってくださいました。これがその秘訣だと思って感謝しています。

学苑だより

●降り注ぐ雨の中、紫陽花が静かに咲き誇っています。ゆったりした時間が過ぎて行きます。

●神学院運営委員会は今後の対応について検討するため2回行われ、夏期実習や学事暦の変更についても話しあいました。

●夏期実習は、4月が自習になった関係で、開始を2週間遅らせ、8月17日（月）開始、8週間が6週間・一個所になります。

●本館2階の第一応接室、院長室の内装工事は終了、第一応接室に新しいソファが入りました。院長室は初代院長の展示室になります。

●ボランティアの方々のご奉仕はしばらくお休みです。

●図書館は少しずつ動き始めました。ご用の方はご連絡ください。

●ベテルハウスは様子を見ながら再開時期を探っています。お問い合わせは馬場姉まで。

●神学院祈り会は行いません。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げつつ、5月の会計報告をさせて頂きます。

4月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
￥2,000,000

教会員による
「神学院サポート献金」
￥627,050
教会団体による「神学院献金」
￥448,150
合計￥1,075,200
その他の献金（一時・特別）
￥43,000

・振替：00230-0-10138

公報

本部通達

「それだけではなく、苦難さえも喜んでいます。それは、苦難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと、私たちは知っているからです。この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」（ローマ五・3～5）

本格的な夏を迎えておられることでしょう。

今年は新型コロナウイルスの影響下、各教区の夏の聖会や諸プログラムが軒並み中止や、オンラインでの開催となっています。とにキャン、ユース・ステーションなど、中高生、青年たちのプログラムもオンラインで行われます。各教会のプログラムも影響を受けていることでしょう。どのような形態になったとしても、祝福された時となりますようにお祈りいたしましょう。

■本　部

〈会議〉

6日（月）午後1時30分
教団運営委員会（オンライン会議）

▽7～8月の本部業務について

毎週火曜日のみ、午後1時～4時までに限り業務を再開いたします。総務局職員が交代で1名常駐しております。

教財勢報告につきましては、eメールでの添付送信に引き続きご協力をお願いいたします。

▽厚生委員会は6月号で中止をお知らせしましたが、7月27日（月）に開催することにいたします。

■国内教会局

▽例年は今月末から各地域の聖会が始まるのですが、今年は新型コロナウイルスの影響で聖会の開催中止を決定した教区が多くあります。情報（＊）は下段のリストを参照してください。

▽引退、休養等の意向のある牧師は、8月末までにブロックアドバイザーにお申し出ください。

■世界宣教局

▽2019年度の「宣教コイン献金」報告

・総額は2、002、060円

・「愛の泉プロジェクト」支出総額は539、670円

①カンボジア＝カンボジア・クリスチャン・コミュニティー（KCC）本部献堂式支援、教会用楽器

②ケニア＝皮膚移植のための替え刃

③フィリピン＝ロザリス聖書大学の業務用炊飯器とキーボード、パラワン聖書大学の台所ドア修理

④ザンビア＝宣教訪問団の奉仕用のペンキ、コンテナ（倉庫）の中の棚の材料費他

・残額1、462、390円は宣教師活動費へ

国内外の諸教会、皆さまからのご献金に感謝いたします。今年も11月15日の宣教聖日に向けてご協力をよろしくお願い致します。

■教育局

〈教育部・生涯学習課〉

年会時に予定していた若手牧師研修会が中止となりました。補いのため、Zoomを用いてリモート・ミーティングを開催予定。

日程＝7月7日（火）午前10時～12時

内容＝小礼拝、研修「コロナ禍での牧師のセルフケア」、分ち合い

〈教育部・信徒教育課〉

▽信徒伝道者養成課程スクーリング

日程＝9月1日（火）のみ

Zoomにて開催予定

〈青少年部・中高生課〉

▽第13回「とにキャン」

8月10日（月）、Zoomを用いてのオンライン開催

午前＝中学生、午後＝高校生の2グループに分ける。

参加費（Tシャツ代込みで2千円、兄弟割りあり）

・有名な2人の特別ゲストが緊急参加予定

・ゲームの優勝チームに豪華景品準備中

・講師＝朝岡勝師（同盟・徳丸町教会）

テーマ＝「メダリスト～なくならないもののために～」

〈青少年部・青年課〉

▽第7回全国ユース・ステーション全国大会に代わるプログラム「YSオンライン」を行います。

8月15日（土）午後3時～5時

講師＝松尾献主事（KGK）

▽YSB第5回全国リトリートは11月にオンラインで開催を検討中です。詳細は次号に掲載します。

■信徒局

11月3日に開催が予定されていた近畿教区壮年部大会は中止となります。

■聖宣神学院

▽夏期実習の日程変更

8月3日（月）開始予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で4月が自習になりましたので、開始を2週間遅らせ、8月17日（月）～9月27日（日）の6週間・一個所になります。

▽秋の入学審査は9月7日（月）。出願締切は8月24日（月）です。

▽7月は神学院祈り会は行いません。

▽ベテルハウスは現在閉鎖しています。再開については改めてお知らせします。お問い合わせは学務課の馬場姉まで。

▽BTC後援会たより第7号は受け取られたでしょうか。情報満載です。ぜひお読みください。

■各地域の聖会情報

◇東北北・北海道オンライン聖会

日程＝7月23日、24日

会場＝各教会と家庭をオンライン（Zoom）で結んで行います。

講師＝蔦田康毅師、國光勝美師、川嶋直行師

教会学校担当＝ホーリー・ミュールハイゼン師、ザック・マッツ師

◇東北南CD聖会

講師＝河村襄師（説教をCDに録音して、各教会に配布します。）

◇北関東聖会は中止となります。

◇東関東聖会は中止となります。

◇林間聖会は中止となります。

◇静岡聖会

日程＝11月3日（火）

講師＝岩上祝仁師

◇中京聖会は中止となります。

◇北越聖会

長岡会場は中止となります。

北陸会場（検討中）

日程＝11月3日（火）

講師＝梅田登志枝師

◇関西聖会は中止となります。

◇中国聖会は中止となります。

◇四国聖会は中止となります。

◇九州聖会は中止となります。

◇沖縄聖会（開催予定）

日程＝11月3日（日）

講師＝大兼久芳規師

会場＝那覇教会

■出版事業部

▽7～8月の出版部の業務

出版部は毎週木曜日、午後1時～4時に限り業務を再開します。職員が1名常駐します。

至急の際や部に職員不在の場合は越谷教会までご連絡ください。

▽2020年のリーフ夏号、クリスマス号の休刊のお知らせ

新型コロナウイルスの影響により、チラシ配布が困難となっている現状があり、今年の夏号、クリスマス号は、休刊します。ただし、バックナンバーのセールをいたします。希望される教会は、出版部までご連絡ください。

教報PDFパスワード＝4467

新生宣教団　定価　一部110円（税込）
郵便振替　00110・7・133609
発行人　内山　勝　編集者　寺村秀嗣
発行所　東京都千代田区神田駿河台一一
印刷所　埼玉県比企郡鳩山町熊井一七〇
OCCビル　イムマヌエル綜合伝道団本部